

国語分科会

報告者 大阪・二宮聡介

国語の分科会は、多種多様な資料が出ます。今年は、資料発表数は、11でした。どの資料も発表する人の想いが伝わってきて良かったです。1つの発表に時間をしっかりとれなくて申し訳なかったです。その中から二宮のお気に入りを入りを3つ報告させていただきます。

(1) 漢字教育の実験と＜教師の研究と自由＞

小野健司（四国大学）

石井勳（いしいさお）の漢字教育法とその広がりについての資料発表。漢字の学習方法の歴史がわかるというよりは、教育研究の進め方の1つの歴史を知ることができて、興味深かったです。発表を聞きながら、仮説実験授業のこれからの広がりはどうなるのだろうと考えてしまいました。

とても興味深い資料でたくさんの方に読んでもらいたいと思いました。

(2) ローマ字を発明したのは誰か？

佐々木邦道（千葉）

3年生を担当するとローマ字を教えます。しかし、何のために教えるのか？なんでヘボン式があるのか？など、教える側にも疑問がいっぱいです。その疑問が解消できるように、佐々木さんが

資料発表してくれました。「へえ～」と思う事もたくさんあり、勉強になりました。

(3) 予想読みに関する資料

「複式で予想読み」 松ロー巳（福井）

「あめだま」を予想読みに 佐藤弘道（茨城）

「作者との対決」 二宮聡介（大阪）

ここ数年国語の分科会で話題になっている予想読みについて、今年も資料がでました。毎年同じテーマで資料が複数出ると研究が進んでいき楽しいです。